

先輩社員に聞く電気工事の魅力



常に仕事への工夫を忘れない

真柄義夫

西山電気株式会社
工事部

2011年3月卒業 同年4月入社

出身校 東京電機大学・工学部電気電子工学科

―― 就職活動はどのように行いましたか？

真柄 大学では電気を専門に勉強していましたので、初めから電気工事業界で働きたいと考えていました。ですから、就職課の担当者の方に相談もしましたし、インターネットや就職情報誌なども参考にして、候補を絞っていました。

―― 西山電気に入社した動機を教えてください

真柄 大きかったのは、就職課の担当者の方から西山電気を紹介されたことです。その後、西山電気のホームページを調べたのですが、2019年で創業100年を迎えると書かれていたのを見て、これほど長い期間にわたって会社が存続しているということは、得意先からの信頼も厚いはずだと思いました。

―― 研修内容はこういった形だったのでしょうか？

真柄 研修期間は約2ヶ月だったと思います。具体的には一週間一つの現場を経験し、それを4回ほど行います。さまざまな現場を経験できたので、現場の雰囲気になれることができました。その他にも電気工事業界や基礎的な知識などを学ぶ座学があります。

―― 現在はどのような現場を担当されていますか？

真柄 今は病院の新築工事を担当しています。これまでは事務所ビルの新築工事が中心でしたので、初めての経験になるわけですが、現場代理人としてさらに成長できるチャンスだと思い頑張っています。

―― 現場代理人に必要とされるコミュニケーション能力ですが、入社当初は知識や経験不足などもあり、現場では年上の方が大半を占める状況の中で、どのように対応していましたか？

真柄 当初は業界特有の専門用語が飛び交う現場ですか

ら、会話の内容が理解できないこともあり、戸惑ったことはあります。そのため、早く専門用語を理解しなければならないと考えていましたので、むしろ専門用語を理解するために電工さんたちとコミュニケーションを取っていた部分もあります。

勉強できるチャンスなのだから、この機会を逃したらもったいないと自分に言い聞かせていました。また、若さの特権と言いますか、分からないことを聞くことは恥ずかしいことではありません。

―― 現場代理人として工夫していることは？

真柄 作業内容の変更が起きた場合、その内容が緊急性を伴わないケースもあります。もちろん直ぐに伝えなければならぬことは処理しますが、緊急性が伴わない事柄は、その都度伝えるのではなく、同じように緊急性を伴わない事柄と一緒に溜めておき、一定の段階で図面に落とし込んで、電工さんに伝えるようにしています。

電工さんも頻繁に変更の話しをされればあまり良い気分ではないでしょうから、そうしたことを避け、電工さんに気持ちよく仕事をしてもらえるように努力しています。こうした細かい気づかいの積み重ねも、電工さんの信頼を得るためには、とても重要なのではないかと感じています。

―― 仕事をしている中でどのような時に喜びを感じますか？

真柄 日々、一つの建築物の工事に携わっているわけですが、作業工程が進み完成に近づいていく過程は常に喜びを感じられる瞬間です。それとこれは多くの方が感じられていると思うのですが、完成した建築物に電気が点灯した時も感動します。そこまでの努力や苦労などが報われている結果ですから、この経験は建設業でなければなかなか味わえない感覚なのではないでしょうか。